

## ④ 個で考えを問い直す

- 問い直す
- 自分の考えを形成する
- 自己の変容に気付く
- 学びの意義を理解する
- 振り返って次へつなげる

### 社会科

タブレットPCで「個人思考→集団思考→全体共有→個人思考」のプロセスの記録を振り返りながら、自分の考えの変容について考えることを通じて、これまでの学びを問い直すことができる。

自分の考えを形成する

自己の変容に気付く



### 数学科

タブレットPCで平面の運動として理解した立体の特徴をもつものを身の回りから探して撮影し、学んだことと生活とのつながりを考えることができる。

学びの意義を理解する



## ICT COLUMN

### 個で考えを問い直す

自分の考えを「問い直す」ことで、これまで学んだことを社会や生活と結び付けたり、新たな問いをもったりすることができ、学びに向かう力が育まれる。

また、自分の考えを問い直すためには、友達や教師と対話したり、資料や習得している知識と対話したりするなどの「対話的な活動」が不可欠になる。

#### 対話的な活動

- 友達との対話  
(ペア、グループ、学級など)
- 教師との対話  
(発問、個別の助言、情報の提供など)
- 資料との対話  
(教科書、資料集、辞書、本、図鑑、過去の児童・生徒の作品など)
- 習得している知識との対話  
(記憶、過去の経験、他教科で考えたことなど)



学習課題に対する  
自分の考えの再構築

自分の考えを  
問い直す

知識・技能



### 効果的なICT活用の選択

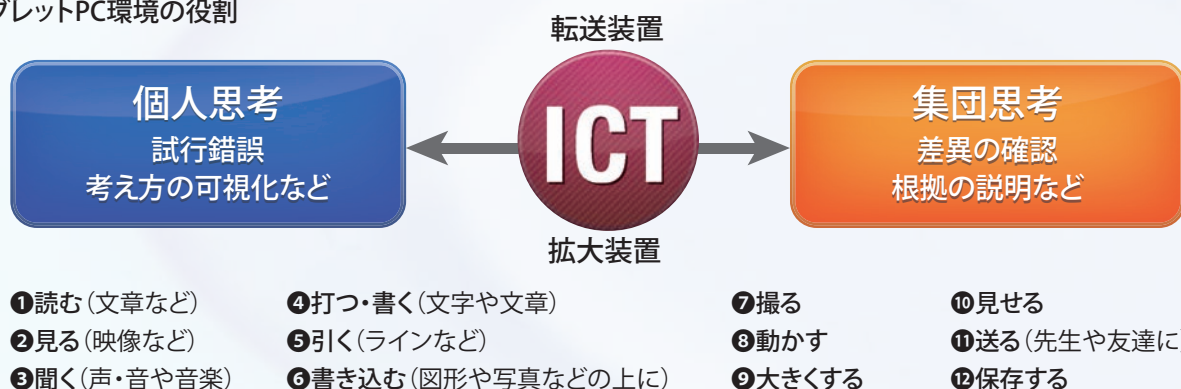
## タブレットPCの可能性

「身に付け・使い・問い直す」という学びの過程において、ICTを効果的に活用することで、児童・生徒の思考力・判断力・表現力等をより高めることができる。タブレットPCの活用方法は下の図のように多岐にわたる。学習のねらいを達成するために、タブレットPCの活用方法や使用人数、活用場面の効果的な組み合わせを工夫した。

#### ■タブレットPCの使用人数



#### ■タブレットPC環境の役割



## ICT COLUMN

### プログラミング教育（プログラミング的思考の育成）

#### 算数科

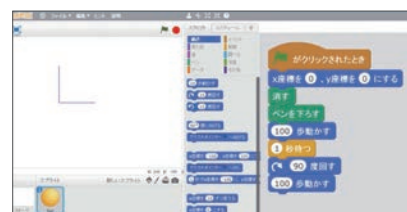
コンピュータを活用して、プログラミングすることで正多角形の作図をする。情報の一部を変えることでいろいろな正多角形を画面上で作図することができる。プログラミングを体験しながら論理的思考力を身に付けることができるようにする。

#### 理科

6年の「電気の利用」の学習内容の一つである「電気の効率的な利用」でプログラミングが位置付けられる。プログラミングを用いて電気を効率的に利用する仕組みを構成することは、電気の学習の理解を助けるだけでなく、思考力・判断力・表現力等を育む。例えば、明るさのセンサーを使って、「暗くなったら、電気がつく」、人感センサーを使って、「人の動きを感知したら、電気がつく」といった仕組みを生活の中からイメージしながら考える。日常生活で使われているセンサーやプログラムの有効性を「体験的に」学習する。

#### 技術科

小学校において育成された資質・能力を土台に、生活や社会の中からプログラムに関わる問題を見出して課題を設定する力、プログラミング的思考等を発揮して解決策を構想する力、処理の流れを図などに表し試行等を通じて解決策を具体化する力などを育成する。また、順次、分岐、反復といったプログラムの構造を支える要素等の理解を目指す。



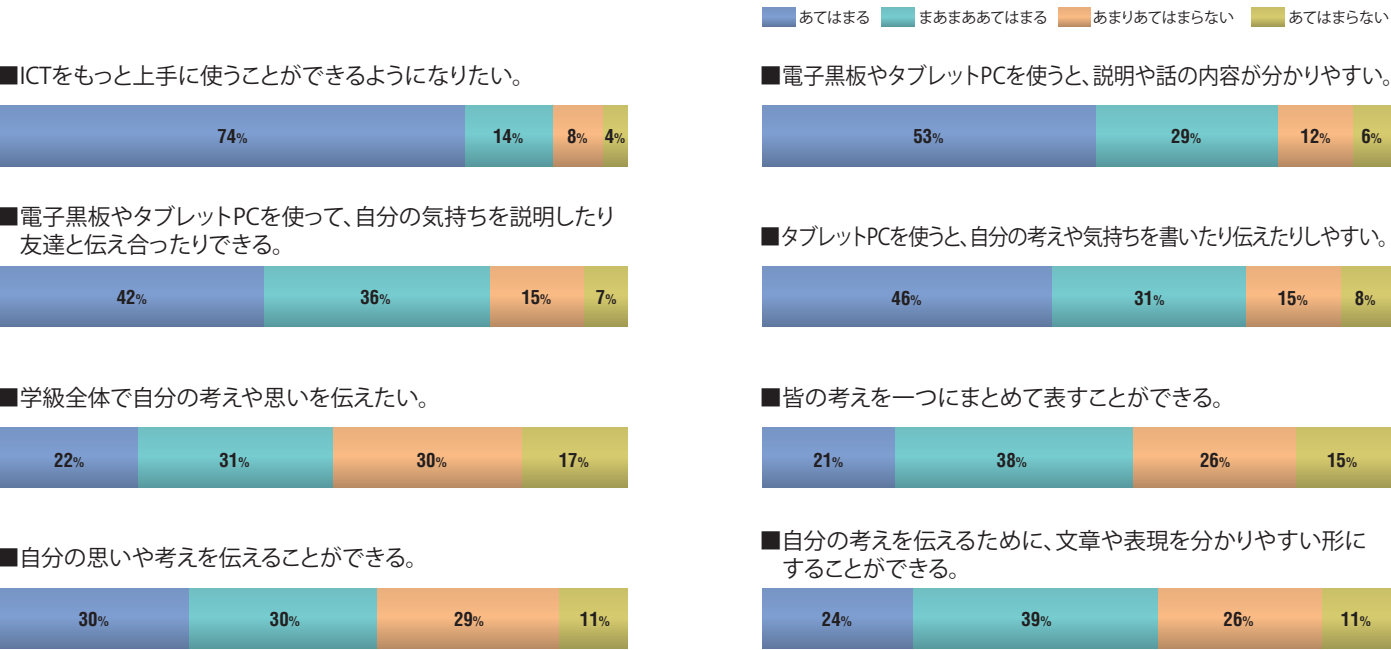
プログラミングソフトを活用した正多角形の作図



センサーやスイッチなどの機能を持ったMESHブロック

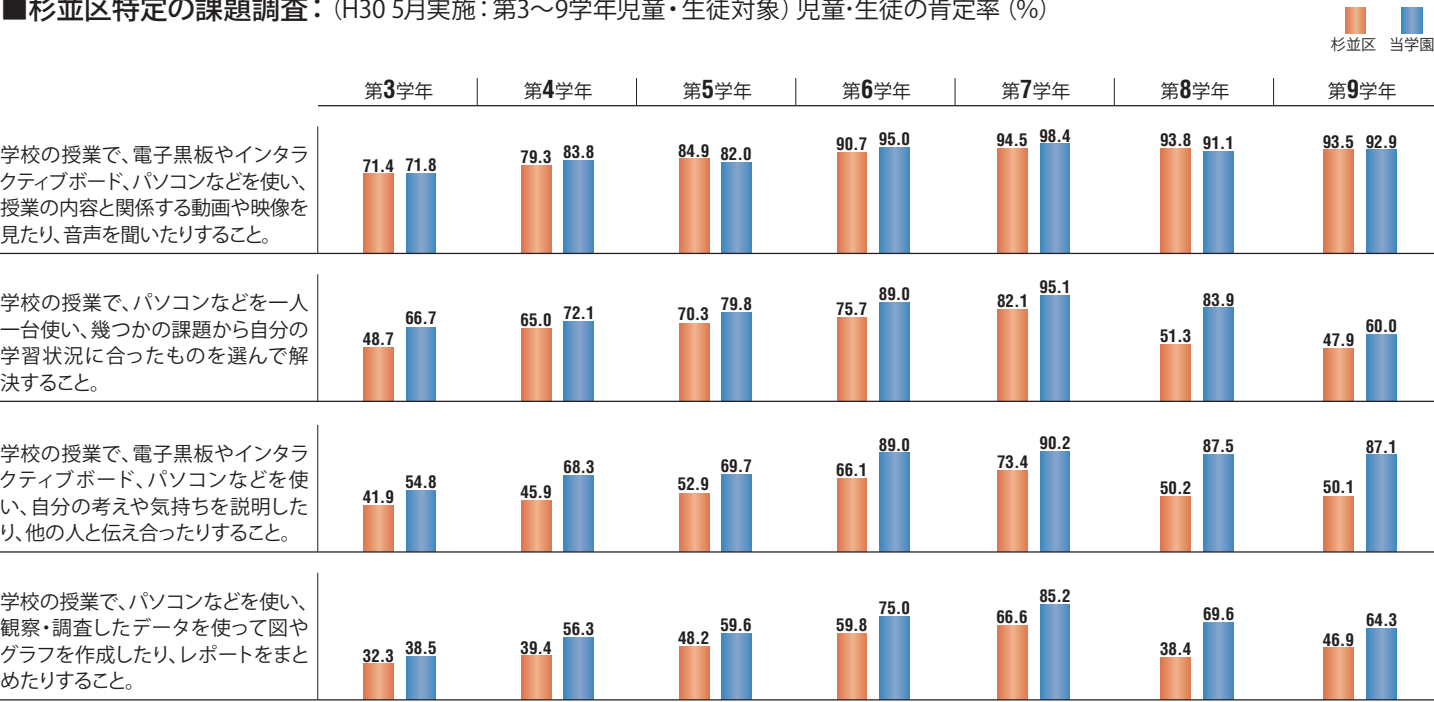
# 資料：児童・生徒の実態調査

## ■学習に関するアンケート調査：（H30 7月実施：全学園児童・生徒対象）児童・生徒の回答状況（％）



- 多くの児童・生徒が、ICTを使うと、説明や話の内容が分かりやすいと考えていたり、自分の考えや気持ちを表現しやすいと感じたりしている。
- ICTを活用するよさや必要性を感じるだけでなく、ICTをさらに自在に活用したいという意欲の高い児童・生徒が多い。
- 自分の考えや思いを伝えることや、自分の考えを分かりやすい形にまとめて表現することに苦手意識をもつ児童・生徒が多い。










## ■杉並区特定の課題調査：（H30 5月実施：第3～9学年児童・生徒対象）児童・生徒の肯定率（％）



- ほとんどの項目、学年で区平均を上回っている。一部下回っているものも、3%未満であり、優位な差とは認められない。
- 授業における資料提示や説明等への使用については、第6～9学年において高い肯定率を示している。小学部においては、学年が上がるにつれ、肯定率が高くなっている。
- 自分の考えを説明したり、友達と互いの考えを伝え合ったりするためのツールとしての活用については、どの学年も区平均を大きく上回る。
- グラフ作成やレポート作成等の表現の手段としての活用については、総じて低い傾向にある。

# 資料：本学園のICT環境

## 【ハードウェア】

ICT機器		設置場所・台数等
	タブレットPC (児童・生徒用)	中学部 全学年1人1台 ..... 200台 小学部 6年生1人1台 ..... 100台 他学年共用分 ..... 40台 PC室 ..... 40台
	タブレットPC (児童用 iPad)	特別支援学級 ..... 30台
	タブレットPC (教師用／児童・生徒機と同機種)	教員1人1台 ..... 60台
	タブレットPC (教室用)	教員1人1台 ..... 60台
	書画カメラ (手元を画面に投影する)	各教室1台 ..... 50台
	電子黒板機能付プロジェクター	各教室1台 ..... 50台
	インタラクティブボード	理科室 (小/中共用) ..... 1台 特別支援学級 小/中 各1台 ..... 2台
	プロジェクター付ホワイトボード	大/小アリーナ 各1台 ..... 2台
	デジタル顕微鏡カメラ	理科室 小2台/中1台 ..... 3台
	デジタルカメラ	各学級1台＋共用分 ..... 80台
	デジタルビデオカメラ	共用 小5台/中3台 ..... 8台
	Wi-Fiネットワーク (無線アクセスポイント)	校内全館配備

## 【ソフトウェア】

ソフト名	主な機能
スカイメニュー	学習支援ソフト (教師－児童・生徒のインタラクティブ通信)
ロイロノート	学習支援ソフト (教師－児童・生徒のインタラクティブ通信)
学習探検ナビ	検索型学習支援ソフト (資料検索・ドリル学習 等)
NHK for School	検索型学習支援ソフト (資料検索・学習教材 等)
ミライシード	学習支援ソフト (教師－児童・生徒のインタラクティブ通信)
MS Office	作品制作ソフト (文書・プレゼンテーション等)
Cube Kids	児童向け作品制作ソフト (文書・イラスト等)
Scratch	プログラミングソフト
その他	算数科／数学科で使用するデジタル学習教材 等





## 国語科

## 深い学びとは

言葉で理解したり表現したりしながら、自分の思いや考えを広げ深める学び

小学部

4年

単元名

**説明のしかたを工夫して、分かりやすく伝える文章を書こう**  
(「クラブ活動リーフレット」を作ろう)

本時のねらい

友達の作文のよいところを見付けて伝え合う。

ICT

- 課題解決の手掛かりとなる学びの支援をする。  
【タブレットPC・デジタル教科書】
- 文章の表現を推敲し共有する。  
【タブレットPC・スカイメニュー】

## 授業の様子

本単元では、自分がクラスの人に紹介したいものを作文に書く学習をした。児童がタブレットPC上で、友達の作文のよい表現や改善点を見付け、色別に線を引くという活動である。

児童は、友達の作文のよい表現を見付け、サイドラインを引いた画面を友達に見せながらアドバイスし合った。長い文を短くまとめたり主語を補ったりと、読み手に分かりやすい文章にするような内容が多かった。また、全体で活動を共有するために電子黒板に映して紹介するなどICTを効果的に活用できた。

ICTを映像資料だけでなく、文の添削や推敲という学習活動においても活用し、対話したり問い直したりしながら表現力を高めることができた。



友達の作文を読みながら、よいところ、改善点にサイドラインを引いたものを投影し、思考を共有する。



友達に指摘された点を振り返りながら、よりよい文章を考え、学びを深める。

中学部

9年

単元名

**視野を広げて「月の起源を探る」小久保 英一郎**  
(光村図書 国語3)

本時のねらい

科学的な文章を読み、文章の構成や特徴をとらえ、自分の言葉で表現する。

ICT

- 学習課題への興味・関心を高めるための教材提示をする。  
【タブレットPC・デジタル教科書】
- 文章から読み取ったことを整理し、図解する。  
【タブレットPC】

## 授業の様子

本教材は、科学的な語句が多く、読解が苦手な生徒には理解しにくいところがある。図を使い説明するという、理解したことを表現させる活動を取り入れることで、主体的な読みができるようになった。

9年の生徒は、これまでの積み重ねにより、ICTの操作に慣れている。今回、主として用いている「ロイロノート」というソフトは、全員の考えを一画面に提示できる。また、色分けや消す作業が簡単にでき、ノートに比べ短時間で自分の考えを効率よく表現することができるため、集中して取り組む姿が見られた。

主な内容としては、まず図の使い方に着目して、内容を読み取った。それを踏まえ、3つの古典的仮説の中から一つを選び、文章から理解したことを、(1)「古典的仮説」の説明、(2)「その古典的仮説が否定されている理由」について分かりやすくまとめ、2枚のシートをつなげて説明をした。ジグソー学習にすること

とで、生徒たちは、他の友達の発表も真剣に聞き、自分の理解を深めていた。



少人数のグループで説明を聞き、質問をすることで、内容の理解を深める。



グループの代表の生徒が全体で発表することで、説明の仕方の違いに気付いたり、読み取りの整理と確認をしたりする。

## 成 果

- タブレットPCを活用したことで、全員が自分の考えをもつ学習になった。
- 色分けをしたりサイドラインを引いたり、図を用いたりすることで、考えの可視化が容易になった。

## 課 題

- ICTにより資料作成は容易になったが、話の内容に応じた効果的な資料を作成する力を育てる必要がある。
- 発表や話し合いでは、視覚的な資料に頼ってしまい、要点や話し手の意図を踏まえて聞く意識が薄れてしまった。



webで最新の指導案集を公開中

杉並和泉学園のホームページで最新の国語科の指導案集を公開しています。  
<http://www.suginami-school.ed.jp/izumigakuen/kounaiken/jirei>  
※一定期間をすぎますと公開を終了させて頂く場合がありますのでご了承ください。

詳しくはこちらから→





## 社会科

## 深い学びとは

広がりやつながりに着目して考え、社会の中で活用できる力を身に付けるための学び

小学部 単元名

5年

## 情報産業とわたしたちの暮らし

本時のねらい  
地震直後の放送局の災害報道の様子について調べる。

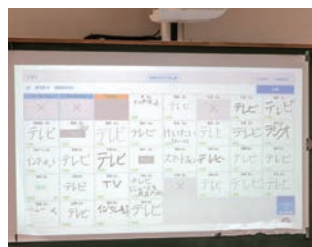
## ICT

- 児童全員で考えを共有する。  
【タブレットPC・ロイロノート】
- 興味・関心を高めるために動画と静止画による資料を提示する。  
【タブレットPC・ロイロノート】

## 授業の様子

前時のオリエンテーションにおいて出された児童全員の意見をプロジェクターで示すことで、すぐに考えを共有できたり、本時の課題を把握したりすることができた。

福島県沖の地震のニュースの動画について話し合う際、動画を数枚の静止画にして児童のタブレットPCに送信し、動画の内容を想起できるようにした。1人1台のタブレットPCがあることで、各自、見たい静止画を選んで自分のペースでじっくり考えることができた。さらにペアで静止画の資料を見せ合いながら、分かったことやそこから考えたことを児童同士が活発に交流することができた。



前時に一人一人の意見を教師のタブレットPCに提出させる。導入で映し出して全体の意見を共有する。



1人1台のタブレットPCで4枚の静止画を見ることで、個の思考を深めることができる。

中学部 単元名

7年

## 世界各地の人々の生活と環境

本時のねらい  
写真資料の活用を通じて、人々の衣食住と自然環境との結びつきについて考える。

## ICT

- 様々な資料を活用しながら、資料について考える。  
【タブレットPC・ロイロノート】
- 個人やグループで考えたことを共有する。  
【タブレットPC・ロイロノート】

## 授業の様子

タブレットPCに配布された写真が5つの地域のうち、どの地域なのかを考えた。資料集、地図帳、教科書、インターネットなどの資料から必要な情報を選択・収集し、判断の根拠とした。学んだ内容を生かしながらどの地域かを判断し、根拠となる部分を直接タブレットPC上で書き込みながら考えることができた。タブレットPCに写真を配布したことで、写真を拡大して、より細かいところに着目しながら印を付ける等、資料をより深く読み取ることが可能になった。

また、生徒自身が書き込んだタブレットPCの画面を見せ合いながら、自分の考えを説明し、それに基づいて話し合うことによって、互いの考えの根拠を共有、比較しやすくなった。さらに全体で各グループの考えを共有し、比較することによって、個々の考えを問い直すことができた。



様々な資料を活用して、判断した根拠をタブレットPCに書き込みながら、自分の考えを形成する。



タブレットPCを友達に見せながら説明することで、考えを共有し、比較し合いながら、グループの合意を形成する。

## 成果

- 「地理的環境と人々の生活」に関する学習では、3D地図で提示することが効果的だった。
- 資料をもとに話し合う際は、タブレットPC上に線を引いたり、操作したりすることで、意見交流が活発になった。

## 課題

- 小グループでの話し合いでは、話し合いの内容は活発になるが、全てのグループの内容を全体共有しようとすると時間が足りなくなってしまう。
- 1単位時間でのICT活用については工夫できたが、単元の中で複数時間にわたって活用することができなかった。効果的な継続活用の仕方について、研究する必要がある。



webで最新の指導案集を公開中

杉並和泉学園のホームページで最新の社会科の指導案集を公開しています。  
<http://www.suginami-school.ed.jp/izumigakuen/kounaiken/jirei>  
※一定期間をすぎますと公開を終了させて頂く場合がありますのでご了承ください。

詳しくはこちらから→





算数科



数学科

## 深い学びとは

既習事項を生かして論理的に考えることで、よりよい考えをもつ学び

小学部

単元名

2年

## 三角形と四角形

本時のねらい

長方形、正方形の定義を身に付ける。

ICT

- 身の回りのものの中から長方形、正方形を見付け写真に撮る。【タブレットPC・ロイロノート】
- 写真の中から図形を見付ける問題を出題する。【タブレットPC・ロイロノート】

## 授業の様子

前時までに学習した長方形、正方形の定義の定着を図るため、身の回りのものの中から長方形、正方形を見付け出す学習を行った。タブレットPCを使用することで離れた場所にあるものを写真として手元に持ってくるができる。児童は、身の回りから見付けた長方形や正方形を撮影し、どこに図形がかくれているのかクイズとして出題した。

見付ける際には身に付けた定義を根拠に図形を探した。出題の前には、実際に長方形や正方形を画面上で確認させることで、問い直す場を設定した。出題した際には、全員が画面上で直角カードや紙テープを使って定義に当てはまっている

のかを確認することで、繰り返し問い直す場を設定することができた。



見付け出した図形について判別の理由を説明しながら、全体で確認し合う。



友達から出題された写真が各自のタブレットPCに送信され、写真の中から図形を探し出す。

中学部

単元名

7年

## 面を動かしてできる立体

本時のねらい

観察・操作・実験を通して、空間図形を平面図形の運動によって構成されたものとしてとらえる。

ICT

- 回転体を作成して切断面について考える。【タブレットPC・ロイロノート・デジタル教材】
- 身の回りのものの中から回転体を見付け写真に撮る。【タブレットPC・ロイロノート】

## 授業の様子

まず、平面図形から回転体を作成して切断面を表示するタブレットPCデジタルコンテンツを使用し、切り口がどんな図形になるかを考えた。個々が何度も繰り返し操作する中で、全員が結論を導くことが出来ていた。ロイロノートで回答を共有した後、予想した切り口と符合するのかが確認した。他の生徒の考えを一斉に見ることで、結論をより数学的な表現に変えることが出来ていた。次に任意の平面図形を回転できるタブレットPCデジタルコンテンツを使用し、平面図形がどのように動いて回転体になるのかを理解した。生徒は様々な複雑な平面図形を作成して回転させて、他の生徒と共有していた。

最後に、身の回りのものを写真に撮り、どのような平面図形を回転させたものが予想する活動も行った。インターネットで

学校に無いものを検索している生徒もあり、全員が生き生きとした様子で探していた。



平面を動かして立体を構成する方法を、スクリーンと生徒用タブレットPCに配信して説明する。



回転体を切断したときの切り口がどのような図形になるか生徒が予想する。

## 成 果

- タブレットPCを使用することで、会話と思考、作業のタイムロスがなく十分に思考することができた。
- 繰り返し試行させることができ、自分の考えを問い直すことで深い学びにつながった。イメージと定義を繰り返し行き来することができた。

## 課 題

- 身の回りのものを図形として捉えさせようとして写真を撮らせると、その図形の特徴を正確に捉えられないことがあった。  
(例 正方形、長方形の直角)



webで最新の指導案集を公開中

杉並和泉学園のホームページで最新の算数科／数学科の指導案集を公開しています。

<http://www.suginami-school.ed.jp/izumigakuen/kounaiken/jirei>

※一定期間をすぎますと公開を終了させて頂く場合がありますのでご了承ください。

詳しくはこちらから→







## 理科

### 深い学びとは

自然現象の原理について自分の考えをもち、疑問や事象について、他の人の結果を聞いたり話し合いをしたりして、自分の考えを深める学び

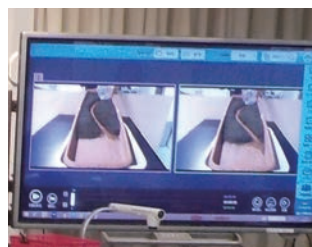
小学部	単元名	ICT
5年	流れる水のはたらき	● 思考の共有のための支援機能 【タブレットPC・スカイメニュー】 ● 流れる水のはたらきを確認するための支援機能 【タブレットPC・カメラ機能】
	本時のねらい 水の量を増やしたときの流れる水のはたらきについてまとめる。	

#### 授業の様子

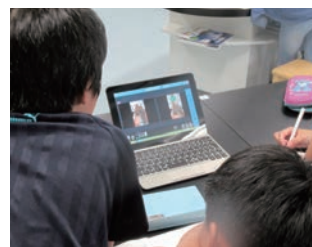
前時に撮影した実験動画を見ながら、実験結果をまとめ考察した。

流れる水の量を増やさないとときと増やしたときの動画を同時に並べて再生することで、変化の様子を何度も確認することができた。比べてみないと分からないことや比べたからこそ気付くこともあり、身近な川へと考えを広げることができた。動画を止めたり、繰り返し見たりすることで、グループで議論し、問い直す助けになった。

また、学習のまとめとして、インタラクティブボードに動画を写し、水を増やしたときの流れる水のはたらきについて全体で確認することができた。



インタラクティブボードで並べて比較した動画を見せることで、全員で変化を確認する。



前時に撮影した実験結果を比較する。

中学部	単元名	ICT
9年	地球と宇宙	● 思考の表現、思考の共有のための支援機能 【タブレットPC・ロイロノート】 ● 天体の動きを理解するための支援機能 【天体シミュレーションソフト】
	本時のねらい 季節ごとの太陽の動きを考える。	

#### 授業の様子

日常の経験から、普段はあまり気にしていない太陽の高度の変化や、日の出日の入りの変化などを振り返り、その原因を太陽の軌跡を考えることで理解した。季節ごとの太陽の軌跡は、地球を外側から見る視点で考えるので、季節ごとに平行移動していることに気付く生徒は少ない。しかし、ロイロノートを使い、様々な仲間の軌跡を見ることで、平行移動という考え方に近付くことができた。また、話し合いの中で生じた疑問や矛盾を相手に伝え、活動的な話し合いができていた。冬と夏の外での部活動時間の変化や、窓際は冬場にカーテンがないと直射日光が厳しいことなど、日常生活の経験とつなげて問い直すことができた。



ロイロノートで送られてきた生徒の軌跡を選んで比較する。



自分で考えた軌跡をロイロノートに書き込み、班で話し合う。

#### 成果

- 既習事項や日常経験とのつながりから考え、議論することができ、深い学びへとつながった。
- ICTを用いることで、全員が意見や考えを提示することができた。また、一度きりの実験の様子を動画で撮影することで、繰り返し結果を見たり、違う条件の結果を並べて比較したりすることができた。

#### 課題

- 紙媒体とデジタル機器の使い方のバランスが重要であり、「どこでICTを使うか」という部分は、これからも十分に議論を重ねていく必要がある。
- 実験でのICTの活用と、実験以外でのICTの活用を両方考えていくべきである。



webで最新の指導案集を公開中

杉並和泉学園のホームページで最新の理科の指導案集を公開しています。  
<http://www.suginami-school.ed.jp/izumigakuen/kounaiken/jirei>  
 ※一定期間をすぎますと公開を終了させて頂く場合がありますのでご了承ください。

詳しくはこちらから→







## 保健体育科

### 深い学びとは

学習内容となる運動感覚・技能を身に付ける過程において、課題を見付け、解決に向けて試行錯誤を重ねながら、思考を深め、よりよく解決する学び

小学部	単元名	ICT
5年	<b>ボール運動 ゴール型「フラッグフットボール」</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●課題解決の手掛かりとなる学びの支援機能【タブレットPC・デジタルコンテンツ】</li> <li>●課題設定と振り返り【タブレットPC・カメラ機能】</li> </ul>
	本時のねらい チームの特徴に応じた作戦を選んだり、振り返ったりする。	

#### 授業の様子

前時に見られたよい動きを動画で紹介し教師が価値付けることで、よい動きの共有化を図るとともに、本時の課題設定を行った。そうすることで学びに向かう意欲を高めることができた。また、チームの動きを振り返る際に動画を活用することで、自分たちの動きを客観的に見て話し合うことができた。さらに、個で振り返る時間を十分に確保することで、チームの作戦のよさと改善点について問い直すことができた。

ゲームに関する基礎知識やチームの課題を解決する方法を調べることができるソフトを活用することで、チームの課題を修正したり、新たに課題を設定したりすることができた。



前時にグループ毎に撮影した動画の中から、よい動きを紹介し、本時の課題設定を行う。



チームの作戦がしっかりと実行できたか振り返るために、攻める様子を撮影する。

中学部	単元名	ICT
8年	<b>器械運動「マット運動」</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●動画と静止画による資料提示【タブレットPC・学習探検ナビ】</li> <li>●課題解決の手掛かりとなる学びの支援【タブレットPC・学習探検ナビ】</li> </ul>
	本時のねらい 自分の課題を発見し、課題解決に向けて運動の取り組み方を工夫する。	

#### 授業の様子

単元の導入では、昨年度までの生徒の連続技の手本動画を見せ、技の滑らかさや発表会の緊張感を感じ取らせた。

新たな技や個人の技を高めるために、インタラクティブボードを使用し、『学習探検ナビー体育デジタルコンテンツ』で技の映像を見た。技の仕方を説明しながら、着手・回転動作・着地など細かくポイントをおさえた。

自分の選択した技を練習していく際に、タブレットPCで撮影し、アドバイスし合うように指導した。生徒が班の友達からのアドバイスで根拠がほしいときは、インタラクティブボードで技の手本動画を再度確認していた。自由に手本動画を選択し、確認できるようにしておいたことで、個に応じた学習を進めることができた。

問い直しの場面では、上手にできていた生徒の映像を見せ、次時の学習への意欲付けを行うことができた。



インタラクティブボードを使用し、技の動画を確認。技を高めるためのポイントを確認する。



グループで動画を撮影し合い、グループで技を見合ってアドバイスし合う。

#### 成果

- 手本となる動きを動画で何度も確認することができるため、よい動きを知ることができ、技能の高まりにつながった。
- 動画で自分の動きや友達の動きを見ることで、自己の課題が明確になり、学習に向かう意欲が高まった。

#### 課題

- タブレットPCの準備に時間がかかり、運動量の確保が難しかった。
- ただ動画を見るだけの活動で終わらず学習課題に迫ることができるようにするために、動画を撮るときや見るときの視点を明確にすることが大切である。



webで最新の指導案集を公開中

杉並和泉学園のホームページで最新の保健体育科の指導案集を公開しています。  
<http://www.suginami-school.ed.jp/izumigakuen/kounaiken/jirei>  
 ※一定期間をすぎますと公開を終了させて頂く場合がありますのでご了承ください。

詳しくはこちらから→





# 音楽科

〈芸術〉

## 深い学びとは

音や音楽と出会う場面を大切にし、主体的・協働的に学習に取り組み、表現したり、他者と共有・共感したりする学び

小学部

単元名

5年

## 連合音楽会にむけての合唱曲「Voices」

本時のねらい

それぞれのパートの正しい旋律を知り、正しい旋律、リズムで歌う。

ICT

- 練習の内容、成果、課題を共有する。  
【プロジェクター】
- デジタル音源を使用し、グループ練習する。  
【タブレットPC】

### 授業の様子

合唱の練習時に同じパートのグループに分かれ、あらかじめタブレットPCに保存してある練習用音源を使用し、パート練習を行った。前時の練習の振り返りを共有し、課題意識や目標をもって練習に取り組ませた。曲を初めから最後まで流して練習するのではなく、できない部分や改善したい部分については、取り出して何度も繰り返し練習するようにした。

練習後、グループ練習での成果や反省点、次時への課題について話し合ったが、自主的に意見を出し合うことは課題である。各自が自分の思いをもって練習することや、互いに意見を出し合い認め合うことの大切さについて、さらに指導していく必要がある。



- ・タブレットPCに保存した音源で、それぞれのパートの旋律を聞きながら、グループで練習する。
- ・難しいところ、改善したいところを繰り返して練習する。



# 図画工作科

美術科

〈芸術〉

## 深い学びとは

主体的に学ぶ意欲を高め、表現の能力と鑑賞の能力を、相互に関連して働くようにする学び

中学部

単元名

9年

## 透視図法を用いた平面構成～「自分の心の中の世界」を表そう～

本時のねらい

造形的なよさや美しさを感じ取り、自分の思いや考えをもって味わう。

ICT

- 課題解決の手掛かりとなる学びの支援  
【タブレットPC・デジタルコンテンツ】
- プレゼンテーションソフトによる鑑賞活動  
【タブレットPC・プロジェクター】

### 授業の様子

完成した生徒作品をスキャンし、プレゼンテーションソフトに取り込み、作者名や題名、作品解説とともにスクリーンに映し出した。その後、制作者が感想を発表し、友達から感想を述べてもらう活動を行った。全作品のスキャン・編集作業は大変であったが、ICTを活用した画像投影により、美術館や映画館のような特別な空間を演出することができた。

大きく映し出された一人一人の作品を全員で鑑賞することで、互いの思いや感動を共有することができ、学びに向かう意欲や関心も高まった。また、自分の作品を客観的に観ることができたという感想も聞かれた。



タブレットPC(プレゼンテーションソフト)とプロジェクターを用い、作品を大画面で映し出して全員で鑑賞した。

